

介護職員初任者研修課程カリキュラム

平成29年4月1日～

科(科目)名	科目番号・内容	実施計画
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス・介護保険外サービスの理解 インフォーマルサービスの理解
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容の理解 サービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種及び介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
(2)介護における 尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の保障(個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護) ICFについて QOLの考え方、ノーマライゼーションの考え方 身体拘束の禁止、高齢者虐待防止と養護者支援 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
	②自立に向けた介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援(残存能力の活用・意欲を高める支援・個別ケア・重度化防止) 介護予防の考え方(廃用症候群・生活習慣病)
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケア 介護職の専門性(重度化防止の視点・利用者主体の支援・自立した生活を支える援助・根拠のある介護・チームケアの重要性) 専門性の異なる多職種の理解、効果的なサービス提供
	②介護職の職業倫理 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の倫理・介護専門職の倫理と介護職と社会的責任 プライバシーの尊重と保護
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> リスクとハザード、リスクマネジメント(事故の分析と対応の技術) 事故報告、事故の予防、情報共有 感染症対策(知識と対応)
	④介護職の安全 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の心身の健康管理(ストレスマネジメント・腰痛予防・手洗いとうがい)
(4)介護・福祉サービスの理解 と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度 (4.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の目的、動向(ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センター・地域包括ケアシステム) 介護保険制度の仕組み、介護給付・予防給付・要介護認定の手順 財源と財政負担・指定介護サービス事業者の指定
	②医療との連携とリハビリテーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 医行為と介護、施設における看護・介護の連携、リハビリテーションの理念 訪問看護
	③障害者総合支援制度および その他制度 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉の理念、ICFについて 障害者総合支援制度の基礎的理解 個人情報保護法・成年後見制度・日常生活支援制度

(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 傾聴・共感 言語・非言語コミュニケーション 利用者・家族の心理的理解・信頼関係の形成・ニーズとデマンドの違い 利用者の状態に応じたコミュニケーション技術
	②介護におけるチームのコミュニケーション (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 記録の意義、目的、種類、書き方（個別援助計画書、ヒヤリハット、各種帳票） 報告、連絡、相談の留意点 情報共有と役割（会議、カンファレンス、申し送り）
(6) 老化の理解 (6時間)	①老化に伴うところとからだの変化と日常 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 老年期の発達と老化（防衛反応の変化・喪失体験） 身体的機能の変化と日常生活への影響 精神的機能の変化と日常生活への影響
	②高齢者と健康 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 骨折・筋力低下・関節痛 高齢者に多い病気（循環器疾患・鬱症状・誤嚥性肺炎） 症状の変化に気づく視点
(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア）
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の定義と診断 原因疾患と治療 早期発見と予防
	③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 中核症状・周辺症状（BPSD） 認知症の人への対応（バリデーション） 不適切なケア
	④家族への支援 (1.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 受容過程での援助 介護負担の軽減（レスパイトケア）
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 障害の概念とICF 障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション）
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害（視覚・聴覚・平衡感覚・音声・言語・咀嚼・肢体不自由・内部障害） 知的障害 精神障害（高次脳機能障害・発達障害など）
	③家族の心理、かかわり支援の理解 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 障害の理解・障害の受容支援 介護負担の軽減
(9) ところとからだのしくみと生活支援技術	ア①介護の基本的な考え方 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 倫理に基づく介護 法的根拠に基づく介護
	ア②介護に関するところのしくみの基礎的理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 学習と記憶の基礎知識・感情と意欲の基礎知識 自己概念と生きがい 老化や障害受容の適応行動と阻害要因 ところとからだの相互作用
	ア③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 骨・関節・筋に関する基礎知識 中枢神経と体性神経、自律神経と内部器官の基礎知識 利用者の様子の変化に気づく視点
	イ④生活と家事 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 生活と家事の理解（生活歴、自立支援、多様な生活習慣、価値観、介護予防の視点） 家事援助に関する基礎知識と生活支援
	イ⑤快適な居住環境整備と介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 快適で健康的な居住環境（照明・色・騒音、家庭内に多い事故） 居住環境の整備と福祉用具の活用（バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与）

(75時間)	イ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 整容に関する基礎知識 (身じたく、衣服の選択、着脱、整容行動の意義・効果) 整容の支援技術 (洗面・整髪・髭そり・爪切り・化粧)
	イ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> 移動・移乗に関する基礎知識 移動・移乗介助に関する福祉用具と活用方法 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 (残存能力の活用、自立支援、ボディメカニクス、褥瘡予防、骨折、バリアフリー)
	イ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> 食事に関する基礎知識 食事環境整備と用具の活用方法 食事と社会参加の留意点と支援 (食事する意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養、脱水、姿勢、咀嚼と嚥下のメカニズム、満腹感・空腹感、好み、環境整備、福祉用具、口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防、配食サービス)
	イ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 入浴・清潔に関する基礎知識 用具と活用方法 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (羞恥心、遠慮への配慮、体調の確認、清拭、陰部洗浄、足浴・手浴・洗髪、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、痒み)
	イ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 排泄に関する基礎知識 排泄環境の整備と用具の活用方法 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (身体面・心理面・社会的意味、羞恥心、プライバシーの確保、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活に及ぼす影響、一部介助の具体的方法、便秘予防)
	イ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識 睡眠環境の整備と用具の活用方法 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 (睡眠の質、安楽な姿勢、室温・湿度・光・音、褥瘡予防)
	イ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識 生から死への過程と「死」に向き合うところの理解 多職種間の情報共有の必要性
	ウ⑬介護過程の基礎的理解 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチ
	ウ⑭総合生活支演習支援技術 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の状況に応じた介護を提供する視点の理解 事例の提示→課題の分析→適切な生活支援の検討→支援技術演習→支援技術の習得と課題
	(10)振り返り	①振り返り (2時間)
(4時間)	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に学ぶべきこと 研修終了後における継続的な研修 (事業所等の実例：OJT/OFF-JTを紹介)

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を行う場合は、「(9) ところとからだのしくみと生活支援技術」内の「ウ 生活支援技術演習」内で、12時間以内とする。

※3 実習受入担当者による指導ではなく、研修担当講師による指導の一環として行われる施設の見学は、「(1) 職務の理解」及び「(10) 振り返り」で行うことができる。